

武蔵地区の市街化区域編入基礎調査を 検討せよ

尾作 武夫 議員（自）

町長 都が20年度に実施予定



武蔵地区の調整区域



質問 都市計画の課題は、人口、産業の容れ物としての都市環境を保全し、その機能を増進することである。長期の見通しに立って、どんなに緻密な資料で積み上げて、周辺市街地の動向や、不測の事情により計画の変更を行うことも当然あり得る。石畑地区南部に位置する武蔵は調整区域として抑制されて36年、市街化区域編入の基礎調査を検討すべきである。町長の所見を伺う。

町長 武蔵地区は、昭和45年の線引きでほとんどが市街化調整区域、さらに48年に農業振興地域に指定され、農業の振興が図られてきた。基礎調査については、5年に1回の調査が義務づけられている。都は、19年度に土地利用現況調査を実施、20年度に基礎調査を行うことになっている。この調査は、市街化区域への編入のみを目的に行われるものではないが、線引きの見直しが必要か否かを検討することになっている。

質問 すべての人に優しいまちづくりは重要である。問① 道路やエレベーター等の公共交通機関の施設設計や建築物、公園、トイレ及び施設の付帯設備へのユニバーサルデザインの取り組みを伺う。

町長 改修時には都の基準に沿ったものとなるよう整備を進めたい。問③ 公共施設等の案内、ウォーキングマップや誘導標識等、ユニバーサルサインの計画的な設置について伺う。



役場福祉課入口のスロープ

ユニバーサルデザイン及び ユニバーサルサインのまちづくりを

町長 作成中の福祉マップには配慮

福島 千恵子 議員（公）



問② 地域保健福祉計画に「施設や建築物がユニバーサルデザインの考え方に基づいて整備されるには時間を要する」とあるが見解を伺う。

こんな質問もありました
子ども議会の開催を、
教育長 実行に向け検討
したい。

三三解説
ユニバーサルサイン
ユニバーサルデザイン（例外なく全ての人に使いやすい施設や製品）を採用した音声案内や案内標識など。

幼児と母親が憩える公園や広場づくりを

町長 子育て支援からも整備は必要

木原 武雄 議員（清風）



質問 わが町には公園が広場及びエコパークを含め70力所ある。また、計画では施設の充実と利用者にとって魅力ある気軽に利用できる適正な配置が必要であるとしている。現状は一部地域に偏っており、遊具など工夫をこらした公園作りを進めるとしている。しかし、幼児が楽しめ母親もくつろげる公園はほとんどなく、他市の施設を利用しているとの声を聞いている。子育て家庭の視点で公園整備拡充を図るよう提案するが所見を伺う。

町長 今年度、公園遊具の修理や塗装のほか、新たに健康器具や遊具の増設も進められている。具体的には狭山谷公園に幼児向けスプリング遊具と健康器具を併設。また、19年度には、石畑地区の残堀川旧川沿い用地を取得して砂場や遊具を設け、水辺に親しむ広場の整備を予定。



スプリング遊具で遊ぶ子ども（狭山谷公園）

町長 今年度より施行予定。こんな質問もありました
町長 19年度より施行予定。

かかりつけ医等の充実と適正配置を

上野 勝 議員（緑）

町長 関係機関に働きかけていきたい



質問 長寿社会となり、医療、介護などの需要が増大し財政を圧迫している。小児医療も無料化や核家族の進行に伴い需要は増しているが、小児科医は少なく、休日・夜間の診療に不安を抱えている。現状をみると、地域医療の中心である、かかりつけ医は少なく偏在している。今後、予防医療や介護予防はかかりつけ医を先頭に実施していかねばならない。そこで、医療施設の誘致と適正配置をどう進めていくか町長の所見を伺う。

町長 小児医療に関しては休日、夜間、救急について協働の推進にまちづくり委員会を。町長 意義を理解することが優先。



石畑診療所

町長 福生市・羽村市と広域的対応ができないか調査検討中。医療施設の確保、医療費の抑制に努めていく。医療施設の適正配置は望ましいが、開設は事業者の意思にゆだねられており、難しいのが現状である。町としては、医療施設の確保に努めるため、都や西多摩地区医師会など関係機関に働きかけていきたい。